

令和6年度 水原小学校グランドデザイン

学習指導要領

【目指すべき資質・能力】
 ○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○学びに向かう力、人間性等

阿賀野市教育の基本理念

ふるさとを愛し、未来を切り拓く人を育てる
 自立 協働 創造

水原小学校重点目

進んで学ぶ子 思いやりのある子 心と体をきたえる子

【ルールの守られた 安心・安全な学校（学級）】

- ・人の嫌がることは言わない、しない(相手の心が温かくなる言動を！)
- ・相手の話は最後まで静かに聞く

【リレーションあふれる学校（学級）】

- ・認め合う、助け合う
- ・自分はこの学校(学級)に必要とされている実感、「貢献」できる喜び

水小スタンダードチェックリスト Q-U

【まなび（知育）】

確かな学力をもち 学び合う

- ◆主体的・対話的で深い学びからの授業改善
- 逆向きの授業設計
- ・学習指導要領をもとにした授業(単元)のゴール(深い学びの姿)の設定からスタート
- まともは教師の責任、まともと正対した課題
- 話し合いの観点の明確化(協働学習)
- ・図、線分図、テープ図等をもとに数量関係を把握し、自分の考えを分かりやすく伝える
- ・WEB診断問題の有効活用
- 単元全体で子どもを育てる
- 「振り返り」で学びの自覚を
- ◆MIM(多層指導モデル)を活用した語彙の充実

【こころ（徳育）】

自他のよさを 認め合う

- 感謝の気落ちを込め「ありがとう」、素直に「ごめんなさい」が言える
- *進んで「あったか言葉」が言える
- 進んで相手のよいところを見つけ、認め合う
- 全校SSEを活用する場の設定(般化)
- ◆「ありがとう」「ごめんなさい」
- ◆相手のよさを見つけ伝える
- ◆自分も相手も大切にしたい自己主張(アサーション)
- 異学年交流活動の充実
- 一人一人の児童生徒理解へ向けた「ふれあいデー」の設定や生活アンケートの実施

【けんこう（体育）】

運動に親しみ、健康や体力を高める

- めあてをもって運動に取り組む
- 規則正しい生活ができる
- 望ましい食習慣を身につける
- 適切にメディアコントロール
- 運動を通して技能が向上したと実感できる体育授業の実施
- 健康な心身を目指した食育の実施
- 健康な心身を目指した保健指導の充実

人権教育、同和教育を土台として **水原小の特色ある教育**

子ども自身が、『話を聴いてくれる』『よさを認めてくれる』『必要とされている』ことが実感できる」学校
 子どもや保護者が「相談したくなる」ほめ上手・聴き上手な教職員

- 積極的に子どもの「名前」を呼び、心からほめる・認める
- できて当たり前を支える(リソース)の活用
- 指導しようとする⇒「**分かろうとせよ!**」
- ・子どもの困り感に寄り添い、話を**聴く**
- 子どもの「**自己決定**」を促す

- 過去のその子自身と比較して、昨日より今日、今日より明日と伸ばすこと(=「よい教師」の条件)
- 他者への「貢献」を通して、必要とされている喜びを実感させる
- 子どもの未来を考え、成長への期待を込めて指導する(叱る)こと
- *指導する(叱る)≠怒る

【特別支援教育の充実】

- 特別支援コーディネーターを中心とした全校体制による特別支援教育の推進(学年会、支援委員会等)
- 指導計画を基にした、個に応じたきめ細やかな指導及び支援の充実
- ・WISCIV等の心理検査を活用した、丁寧な困り感の分析 ・医療等、関係機関との積極的な連携

保護者・地域との連携・協働 *地域連携教育プログラムの活用

- ◆学校の諸課題や改善策を協議する「地域・学校連携推進委員会」の開催
- ◆「ふるさと水原について知り、ふるさと水原を語り、ふるさと水原を愛する」子どもの育成
- ・瓢湖を核とした、ふるさとの良さを学ぶ学習活動の推進(総合的な学習、各教科・領域)
- ・学習ボランティアとの連携、地域の方々の参画
- ◆リーフレット「学校生活充実のために」の活用
- ・教職員、保護者・地域の方々による同一歩調の指導(特に、教職員間)
- ◆「開かれた学校」の推進
- ・学校だより「おかやま」の地域への回覧(月1回発行)・保護者アンケートの実施(7月、12月)
- ・保護者、地域、関係機関と共に取り組む安全な学校環境づくり、学校行事の運営